

初期銚港丸三船等に係る史料構成

史料	分類	船名等	表題等	作成時期又は掲載期間等	史料部	
①	契約書	第二銚港丸	「結約書」	明治13年9月（四者連盟）	A	
②		第三銚港丸	「結約書」	明治14年7月（四者連盟）	A	
③		第一銚港丸	「明治十二年八月船卸 銚港丸新造代金並諸費簿 巻号 会計係」		明治12年9月	B
④	「明治十二年八月十二日開業同三十一日迄 銚港丸利益差引簿 会計係」		明治12年9月	B		
⑤	「明治十四年四月調 第一銚港丸明細差引計算帳」		明治12年8月分～同14年4月分	B		
⑥	「明治廿三年八月開業 銚港丸利益金控 巻号」		明治12年8月分～同15年3月分	C		
⑦	「明治十四年四月 第二銚港丸平均計算帳 篠田氏」		明治14年4月	B		
⑧	第二銚港丸		「明治十三年九月開業 第二銚港丸利益金之通」		明治13年10月分～同15年3月	C
⑨			「明治十三年九月開業 第二銚港丸船代金受払差引取調簿 明治十四年四月調」		明治14年4月	B
⑩			第三銚港丸	「明治十四年七月開業 第三銚港丸利益金之通」		明治14年7月～同16年4月
⑪	「明治十五年四月ヨリ七月迄従第一号 第三号ヲ通過不足計算割賦帳」			明治15年4月分～同15年7月分 明治15年8月25日	B	
⑫	共通			「積金証書等」		明治12年6月～同15年11月（吉岡七郎から篠田両名へ）
⑬			「豊田氏 汽船会計簿」		明治14年9月分～同15年11月分	C
⑭		その他	「誓願書」		明治17年6月10日（吉岡七郎から銚子汽船株主へ）	E

注1: 史料②、⑪及び⑫は、流山市立博物館が所蔵している。

注2: 史料部中、Bは5史料、Cは4史料が各々綴られ、他のA、D及びEは、単独史料である。

注3: 史料⑧については、明治14年7月分～明治15年3月分迄は第3銚港丸のみを、明治15年4月より明治16年4月分迄は第一から第三銚港丸をまとめて記載している。

* 本史料は、明治10年代前期の好景気、明治12年太政官布告第十六号に基づく運輸の自由化に伴う川蒸気船間の本格的競争期及び中期以降の不況期に重なる時期の実態を表す情報を提供している。

- 1、初期銚港丸三船が四者の出資による共同事業であったことが判明する「結約書」(史料①・②)
- 2、第一銚港丸建造費内訳及び四者の持株割合が記載された史料③
- 3、第一銚港丸就航時の明治12年8月12日から同年9月1日までの上り・下り別の航行日、運賃収入、乗員数、人件費及び燃料代等が記載され、収支実態が判明する史料④。
- 4、第一銚港丸に係る利益配分額、出資者への期待利回りに基づく予想配当並びに利益配分額及び予想配当額との差額が記載され、出資金回収実態が判明する史料⑤。
- 5、第二銚港丸に係る建造費及び四者の持株割合が記載された史料⑦。
- 7、第二銚港丸建造に係る四者の出資実態及び差入時期別利子調整実態が判明する史料⑨。
- 8、持株数に応じた利益配分及び赤字となった場合の徴収額が記載された史料⑥、⑧及び⑩。
- 9、明治15年4月以降、各船別記事から三船を統合して利益配分額が記載された史料⑪
- 10、吉岡七郎が篠田両家から銚港丸建造費用を徴収した際の預かり証である史料⑫
- 11、明治17年6月、吉岡七郎が銚子汽船会社株主当て提出した請願書である史料⑭

初期銚港丸三船の概要

船名	長さ	幅		総噸数	登簿噸数	馬力	船体の材料	製造年月日	製造地名	船価(1)		船価(2)	
		尺	深さ							「結約書」	(海軍省報告)		
第一銚港丸	78.0	12.0	4.0	19.0	16.0	10.0	木製	明治12/8/12	東京 靈岸島	4,784,0865	6,500.0		
第二銚港丸	72.0	12.0	3.2	16.0	13.0	16.0		明治13/9/17	東京 靈岸島	7,441,9425	7,300.0		
第三銚港丸	81.0	12.0	4.0	18.0	15.0	20.0		明治14/7/19	東京 靈岸島	7,088,3596	7,550.0		

注: 「諸願窺届綴」(宝田家文書661)中の文書により作成。本資料は千葉県達第222号に基づき、「湖川港湾に限り運航する船舶」を竹袋村役場が調査し、明治17年5月8日付けで県庁に届けたもの。船価1は「結約書」、船価2は海軍省「明治18年汽船表」(明治18年)による。船価1は、第一銚港丸は史料③、第二、第三銚港丸は各「結約書」船価2は、海軍省「明治18年汽船表」(明治18年)による。但し、「汽船表」の価格は、明治18年から20年迄同数であるが、21年の記載価格は、第一銚港丸4800円、第二銚港丸6700円、第三銚港丸6500円となっている。背景は不明。

初期銚港丸三船経営実態表(明治12年8月～明治16年4月)

項目	単位:円											
	第一銚港丸			第二銚港丸			第三銚港丸			三船全体		
	全体利益	月平均	一往復	全体利益	月平均	一往復	全体利益	月平均	一往復	全体利益	月平均	一往復
明治12年	658.4	142.1	4.7							658.4	142.1	4.7
明治13年	3,302.6	275.2	9.2	728.6	210.2	7.0				4,031.2	260.6	8.7
明治14年	3,430.7	285.9	9.5	2,373.0	197.7	6.6	-466.1	-62.3	-2.4	5,337.6	181.6	6.1
明治15年	71.8	7.2	0.2	76.9	7.7	0.3	-1,465.3	-146.5	-4.9	-1,316.6	-43.9	-1.5
明治16年	358.3	89.6	3.0	-255.3	-63.8	-2.1	-40.7	-10.2	-0.3	62.2	5.2	0.2
平均	7,821.7	202.5	6.1	2,923.2	110.4	3.2	-1,972.1	-137.0	-4.6	8,772.8	95.9	3.2

第一鯨港丸の建造費明細

		単位:円
	内容	金額
1	造船費	4,200,000
2	附属品代	249,166
	造船費計	4,449,166
3	船卸祝儀	5,500
4	仮免状費用	2,500
5	酒差入代	2,000
6	利子	192,497
7	出張・隋い代	71,630
8	開業前資金	20,160
9	船卸諸雑費	51,182
10	その他雑費	11,895
11	受領祝儀額	-22,450
	附経費計	334,920
	建造費計	4,784,086
	建造費当初見積額	4,500,000
	確定建造費	4,784,086
	不足費(徴収額)	284,086

注1:史料③より作成

注2:第一鯨港丸に係る持ち株数については、史料③最終頁 篠田両名につき「元株三」朱色で「六」に、 同様に吉岡七郎の「十七」が「十四」に訂正されていた

注3:単位は円

第一鯨港丸建造明細である。作成時期は明治12年9月。第一鯨港丸の8月就航後の四者間清算時のもの。第一鯨港丸の建造費は、造船費が4449円、諸経費が334円、計4784円。建造費の当初予算額を4500円としており、284円超過していた。注目すべきは建造費原価に「利子」1192円を含めていた。不足額の徴収にあたり、建造資金の事前徴収月の前後により、支払月利1.6%(年間20%)による不足額を調整している。利子の問題は共同出資者間において頻出し、出資に際して重要事項であった。資金調達も判明した。4500円を30株一株150円としていた。宮嶋10株、(1500円)、篠田両家6株(900円) 残余の14株(2100円)を吉岡七郎が出資していた。吉岡七郎が全体の47%を出資していた。下の表は、期待利回り20%、回収期間6年を意図した期待配当表である。原価に6年間の期待利回り額5740円を加え、元利合計10524円、年間1754円の利益を期待していたのである。これによれば、原価は、2年7ヶ月で回収できる見込みであった。実際は明治14年4月、1年9ヶ月で回収していた。

第一鯨港丸の代金清算時における期待配当

		単位:円
	元金	4,784,086
	期待利回り(年)	20%
	期間(年)	6
	期間中利子相当額	5,740,903
	元利計	10,524,993
	一株年当期期待当額	58,500
	一株月当期期待当額	4,900

単位:円			
出資者	持ち株数	期待配当額	
		年	月
宮嶋宗十郎	10	594.7	48.7
篠田儀右衛門	3	175.4	14.6
篠田儀左衛門	3	175.4	14.6
吉岡七郎	14	818.6	68.2
計	30	1754.2	146.2

注:史料③より作成

第二鯨港丸の建造費内訳と投下資本回収想定

		単位:円	
	内容	金額	備考
全体	建造費	6,000,000	*
	罫一個	300,000	
	諸費1	200,000	
	諸費2	300,000	
	諸費3	481,763	
	諸費4	160,170	
	小計	7,411,942	注2
	13年2月より14年4月迄の利子相当額	823,125	注3 (15%)
	総計	8,265,067	*
	一株あたり(全体30株)	275,502	
篠田両家	13株分(篠田両家分)	4,132,534	
	13年9月より14年4月迄の受取額	573,459	*
	差引残	3,559,074	*
	14年5月より20年4月迄6年間の利子	4,270,890	注4 (二割)
	元利計	7,829,963	*
一カ年平均期待利益(配当)	1,304,993		
一カ月平均期待利益(配当)	108,749	注5	

注1:史料7より作成

注2:史料7では「7441円94銭二厘6毛」と何故か「5毛」の記載がある

注3:明治13年2月から明治14年4月まで吉岡等4名が支払った元金に対する

利子相当額で表0中の利子計に一致する。

史料⑨中「集金之口」に「(百年一割五分)」とあり、ここは15%としていた。

注4:史料7中「十四年五月ヨリ二十年四月迄向六ヶ年見積 此利子二割」とある。

注5:元利計を6年間(72ヶ月)で除したものの

第二鯨港丸は、明治13年9月17日、木下・鯨子間に開業した。第二鯨港丸は、建造費明細、篠田両家の出資金及び向う6年間の期待配当額(元金の20%相当額)を期したものである。篠田両家は、第一鯨港丸と異なり、四者均等出資に同意し、両家で50%を出資することになった。直接建造費は、船体6000円、その他諸経費1441円、計7441円、他に明治13年~同14年4月迄の利息相当額が823円あり、総額8265円であった。篠田両家は、二分の一、4132円を負担し、開業後から14年4月までの配当金を控除した3559円が「回収元金となったのである。これに向こう6年間、72ヶ月分の利子相当額を加えた元利合計は7829円、これを72ヶ月で除した1月あたりの期待配当額は108円となるのであった。

第二銚港丸建造費に係る福澤造船所への支払及び利子調整

単位:円

支払・徴収 年月	金額	支出割合	篠田両家		宮嶋		吉岡		元金計	利子計	総合計
			元金	利子	元金	利子	元金	利子			
明治13年2月	500	8.10%	450	84.375	0	0	50	9.375	500	93.750	593.750
明治13年5月	1,000	16.10%	1,000	150.000	0	0	0	0.000	1,000	150.000	1,150.000
明治13年6月	2,000	32.30%	1,000	137.500	0	0	1,000	137.500	2,000	275.000	2,275.000
明治13年7月			0	0.000	0	0	350	43.750	350	43.750	363.750
明治13年8月	1,900	30.60%	500	56.250	1,400	157.500	350	39.375	2,250	253.125	2,503.125
明治13年9月	200	3.20%	0	0.000	0	0	0	0	0	0	0
明治14年4月	600	9.70%	0	0.000	0	0	600	7.500	600	7.500	607.500
計	6,200	100%	2,950	428.125	1,400	157.500	2,350	237.500	6,700	823.125	7,523.125
各人別負担元利計				3,378.125		1,557.500		2,587.500		7,523.125	
負担割合				44.90%		20.70%		34.40%		100.00%	
利子4分割金額				411.563		205.781		205.781		823.125	
利子負担調整				16.563		-48.281		31.719		0.000	

注:史料⑨より作成。利子は当該月から明治14年4月迄、年率15%により算出したもの

福澤造船所への支払時期別金額及びそれに対応する各人別の出資金額である。支払時期に対応する「利子」を算出し、四者間で「清算」を行っていたことが判明。これによれば、第二銚港丸の建造に当たり、福澤造船所への支払いは、竣工前の明治13年2月以降竣工までに5回、5600円、竣工後7ヶ月後に600円、計6200円を支払っていた。四者間では、造船費の他関連諸費もあり、6700円を徴収していた。左表は、各人の時期別・出資金別による利子清算表である。篠田両家及び吉岡七郎が過分、宮嶋宗十郎が過少となり、結果48円の調整金を宮嶋が篠田両家及び吉岡七郎へ支払ったものと思われる。四者間で厳密に計算処理されていたのである。

明治前期における米価の変動

単位:円

年	明治10年	明治11年	明治12年	明治13年	明治14年
東京正米相場(1石)	5.11	5.99	7.04	11.75	10.09
(明治10年=100)	100.00	117.22	137.77	229.94	197.46
全国産米額(石)	24,743,791	26,599	25,282,540	32,418,924	31,359,326
(明治10年=100)	100.00	107.50	100.18	131.02	126.74

注:田口晋吉「米の経済」明治31年、大日本実業学会 195頁より作成

吉岡七郎の借借書にみる金利水準

単位:円

契約年月日	債主	金額	金利	返済期日	備考
明治11年03月31日	越川定兵衛(発作)	100	20%	明治12年2月	
明治11年11月09日	吉岡美奈(木下)	200	20%	明治12年2月25日	
明治12年02月24日	三門善次郎(木下)	100	20%	明治12年4月25日	
明治12年08月05日	内国通運会社	1200	18%	明治13年09月31日	元金600円及び金利
				明治13年11月30日	元金600円及び金利
明治13年12月22日	内国通運会社	1500	18%	明治14年01月30日	元金900円及び金利
				明治14年03月30日	元金1000円及び金利
明治14年11月02日	伊藤市平(別所)	100	15%	明治14年12月20日	
明治15年02月 日	三門善之助(木下)	150	15%	明治15年03月25日	
明治15年09月29日	坂巻市兵衛(布佐)	100	20%	明治12年10月25日	

注1:吉岡家文書(以下すべて同じ)蔵2エ-59-11、
注2:蔵2エ-4、
注3:蔵2エ-14
注4:蔵2エ-24-11、
注5:蔵2エ-24-4
注6:蔵2エ-59-7、
注7:蔵2エ-59-13
注8:蔵2エ-59-15 から作成

第一航港丸就航月の運行実績及び売上高

単位:円

	日付	曜日	上り下りの別	金額	往復一航海の売上高	備考
1	8月12日	火	下り	0.720	1.130	
	8月13日	水	上り	0.410		
2	8月13日	水	下り	4.590	5.680	
	8月14日	木	上り	1.090		
3	8月14日	木	下り	2.880	4.290	
	8月15日	金	上り	1.410		
4	8月15日	金	下り	3.470	4.110	
	8月16日	土	上り	0.640		
5	8月16日	土	下り	23.075	36.000	17日の下りなし
	8月17日	日	上り	12.925		
6	8月18日	月	下り	22.520	32.940	19日の下りなし
	8月19日	火	上り	10.415		
7	8月20日	水	下り	18.610	20.010	22日の下りなし
	8月21日	木	上り	1.390		
8	8月21日	木	下り	30.505	56.030	
	8月22日	金	上り	25.527		
9	8月23日	土	下り	28.275	33.370	
	8月24日	日	上り	5.090		
10	8月24日	日	下り	10.380	25.030	
	8月25日	月	上り	14.648		
11	8月26日	火	下り	10.210	19.930	
	8月27日	水	上り	9.720		
12	8月28日	木	下り	11.860	21.750	
	8月29日	金	上り	9.890		
13	8月30日	土	下り	8.183	18.720	
	8月31日	日	上り	10.533		
14	8月31日	日	下り	12.685	24.770	
	9月1日	月	上り	12.089		
売上高(運賃収入)合計				303.748	303.750	
上り売上高				115.777	39.10%	
下り売上高				187.910	61.90%	
一航海平均売上高					21.70	
弁当代餅代				4.125		
総売上高				307.873		

注1:史料④より作成

注2:史料中の売上高、(運賃収入のみ)に係る記載値合計は、303円33銭6厘であり、41銭2厘異なる。本表では修正値を記載。

第一航港丸就航月の支出内訳

単位:円

内容	金額	備考
各所手数料	30.334	一人につき1銭
鏡子屋	0.795	
壁無屋	0.230	
三門屋	0.050	
鈴木屋	0.020	
乗客世話料合計	1.095	
船長	14.000	板垣
器械師	8.000	金子
火夫	6.500	吉村
火夫	5.750	廣野
水夫	6.500	宮内
水夫	6.000	斎藤
水夫	6.000	安井
水夫	3.000	雑名
小使	1.000	伊藤
合計	15.000	不明
下会計	5.500	松本
下足番	1.500	渡辺
船中	1.500	
乗組員給料合計	80.250	
乗組員食糧費	35.275	
薪代	88.895	他、含む細代
油代	20.271	
茶炭弁当菓子仕入	6.570	
合計	262.960	
総売上高	307.873	
支出計	262.690	
差引	45.182	

注:史料④より作成

第一航港丸に係る篠田両家への配当及び出資金回収等の実態
(明治12年8月～明治16年4月)

項目	投下資本(出資金)の回収				単位:円
	配当額(6株)	期待配当額 20%/年	実配当額	期待配当額の差	
年月	A	B	C=A-B	Σ C	残元金額
明治12年08月	8,9541	15.95	-6.9959	-6.99	956.82
明治12年09月	-3,2106	15.95	-19.1606	-26.15	956.82
明治12年10月	19,4904	15.95	3,5404	-22.61	956.82
明治12年11月	45,4100	15.95	29,4600	6.86	949.96
明治12年12月	61,0358	15.83	45,2058	52.06	904.76
12年計	131,6797	79.62	52,0597	3.17	
明治13年01月	51,4730	15.08	36,3930	88.45	868.36
明治13年02月	66,8700	14.47	52,4000	140.85	815.97
明治13年03月	70,8680	13.60	57,2680	198.12	758.70
明治13年04月	84,6820	12.64	72,0420	270.16	686.66
明治13年05月	76,3100	11.44	64,8700	335.02	621.80
明治13年06月	50,4240	1,036.00	-985.5760	375.08	571.73
明治13年07月	75,0961	9.70	65,3961	440.48	516.33
明治13年08月	73,6128	8.61	65,0028	505.49	451.33
明治13年09月	55,6636	7.52	48,1436	553.63	403.19
明治13年10月	-2,2703	6.72	-8,9903	544.64	403.19
明治13年11月	49,8353	6.72	43,1153	587.76	360.07
明治13年12月	55,7193	6.00	49,7193	637.48	310.35
明治13年計	708,2838	122.87	585,4138	4,677.16	
明治14年01月	46,0035	5.17	40,8335	678.31	269.52
明治14年02月	48,7644	4.49	44,2744	722.58	255.25
明治14年03月	159,2682	3.75	155,5182	878.09	69.73
明治14年04月	131,1719	1.16	130,0119	1,008.10	-60.26
明治14年05月	110,4896				
明治14年06月	59,8860				
明治14年07月	117,0796				
明治14年08月	-25,2472				
明治14年09月	5,9458				
明治14年10月	24,7266				
明治14年11月	33,1238				
明治14年12月	24,9229				
14年計	736,1350				
明治15年01月	0,0000				
明治15年02月	-199,4080				
明治15年03月	-29,3950				
明治15年04月	33,0007				
明治15年05月	27,1780				
明治15年06月	7,1591				
明治15年07月	41,7574				
明治15年08月					
明治15年09月					
明治15年10月	13,5410				
明治15年11月	14,3683				
明治15年12月	47,3714				
15年計	184,3760				
明治16年01月	48,8210				
明治16年02月	-1,9055				
明治16年03月	6,1290				
明治16年04月	18,6082				
16年計	71,6527				
合計	1,832,1273				

A区分の記載数値は史料⑥等の記載値であり、算出された利益、つまり配当額である。
B欄は、出資金に対する「元金の利子」で期待利回り相当額(年間20%相当)である。
第一航港丸は、船価4784円、篠田両家は956円を出資していた。
当初の元金額956円82銭に対し、二割の期待配当額は月額15円94銭7厘であった。
明治12年10月、実配当額が9円49銭あり、期待配当額を初めて上回った。
しかし、累積不足金があり、元金は減少していない。
同年11月に至り、「金6円85銭6厘元金江回ル計金949円96銭1厘残り」とあり、
利益が累積配当不足額を超過した6円85銭6厘が元金減の原因となっていることがわかる。
以後、実際の配当額が、残元金に対して20%の期待配当額を超過した場合、
期待配当額を超える金額を「元金二入レル」、つまり残元金を減じていた。

第一航港丸は、就航当初こそ、期待配当額を下回ったものの、その後、経営はすこぶる
順調に推移し、明治14年4月、開業後18カ月で20%の利回りを確保しつつ、
出資金＝投下資本の回収を達成したのであった。
当初の元金を基本とすれば、開業後、明治12年8月～1年間の配当額は607円、
利回り63.5%、2年目、額13年からのそれは807円、84.4%と極めて高い配当額を獲得していた。
しかし、3年目は、56円の赤字に転落した。
明治15年2月に実施した修繕及び1月～3月12日までの休航が影響した。
第一航港丸も含め初期航港丸三船は、銚子汽船の決算書記載の状況下におかれていた。

鯉港丸全体の経営実態状況(明治12年8月～同16年4月)

(単位:円)

項目	第一鯉港丸			第二鯉港丸			第三鯉港丸			合計		
	全体 想定利益	1往復 の利益	元金残									
明治12年08月	44.8	2.5	4,784.1							44.8	3.2	4,784.1
明治12年09月	-16.1	-0.5	4,784.1							-16.1	-0.5	4,784.1
明治12年10月	97.5	3.3	4,784.1							97.5	3.2	4,784.1
明治12年11月	227.1	7.6	4,749.8							227.1	7.6	4,749.8
明治12年12月	305.2	10.2	4,523.8							305.2	10.2	4,523.8
12年計	658.4									658.4		0.0
月平均	142.1	4.7								142.1	4.7	0.0
明治13年01月	257.4	8.6	4,341.8							257.4	8.6	4,341.8
明治13年02月	334.4	11.2	4,079.8							334.4	11.1	4,079.8
明治13年03月	354.3	11.8	3,793.5							354.3	11.8	3,793.5
明治13年04月	423.4	14.1	3,433.3							423.4	14.1	3,433.3
明治13年05月	381.6	12.7	3,109.0							381.6	12.7	3,109.0
明治13年06月	252.1	8.4	2,908.7							252.1	8.4	2,908.7
明治13年07月	375.5	12.5	2,581.7							375.5	12.5	2,581.7
明治13年08月	368.1	12.3	2,256.6							368.1	12.3	2,256.6
明治13年09月	273.3	9.3	2,015.9	-48.0	-3.4	7,442.0				225.3	5.2	9,457.9
明治13年10月	-250.2	-8.3	2,015.9	341.3	11.4	7,224.7				91.1	1.5	9,240.6
明治13年11月	249.2	8.3	1,800.4	212.4	7.1	7,132.7				461.6	7.7	8,933.1
明治13年12月	278.6	9.3	1,551.8	222.9	7.4	7,028.7				501.5	8.4	8,580.5
明治13年計	3,302.6			728.6						4,031.2		0.0
月平均	275.2	9.2		210.2	7.0					485.4	8.7	0.0
明治14年01月	230.0	7.7	1,347.6	255.8	8.5	889.0				485.8	8.1	2,036.6
明治14年02月	243.8	8.1	1,128.2	311.0	10.4	8,689.8				554.8	9.2	1,820.0
明治14年03月	796.3	28.5	348.7	-37.7	-1.3	8,689.8				758.6	12.8	1,042.5
明治14年04月	655.9	21.9	-301.4	-110.7	-3.7	8,689.8				545.2	9.1	8,382.4
明治14年05月	302.4	10.1		720.4	24.0	8,085.0				1,022.8	17.0	8,085.0
明治14年06月	299.4	10.0		313.1	10.4	5,873.9				612.5	10.2	5,873.9
明治14年07月	585.4	19.5		427.1	14.2	5,544.1	11.2	0.9	7,089.6	1,023.7	14.2	12,632.7
明治14年08月	-126.2	-4.2		97.1	3.2	5,539.3	180.1	6.0	7,027.6	151.0	1.7	12,566.9
明治14年09月	29.7	1.0		42.4	1.4	5,539.3	-220.2	-7.5	7,364.9	-148.1	-1.6	12,304.2
明治14年10月	123.6	4.1		192.4	6.4	5,439.3	-57.5	-1.9	7,545.3	239.4	2.9	12,984.6
明治14年11月	165.6	5.5		182.6	6.1	5,347.3	-353.5	-11.8	8,024.6	-5.3	-0.1	13,371.9
明治14年12月	124.6	4.2		-20.5	-0.7	5,347.3	-26.1	-0.9	8,184.4	78.0	0.9	13,531.7
14年計	3,430.7			2,373.0	6.6		-446.1	-15.5		5,387.6		0.0
月平均	285.9	8.5		197.7	6.6		-82.7	-2.2		400.9	6.1	0.0
明治15年01月	0.0	0.0		-34.5	-1.1	5,347.3	-68.5	-2.2	8,387.3	-101.0	-1.1	13,734.6
明治15年02月	-997.0	-33.2		-120.9	-4.0	5,347.3	-111.1	-4.0	8,538.2	-1,129.0	-12.5	13,885.5
明治15年03月	147.0	4.9		174.2	5.8	5,282.2	31.3	1.0	8,649.2	382.5	3.9	13,911.4
明治15年04月	165.0	5.5		55.1	1.8	5,317.3	-394.3	-13.2	8,649.2	-174.7	-1.9	13,966.5
明治15年05月	135.9	4.5		23.2	0.8	5,340.4	-115.3	-3.9	8,649.2	43.3	0.5	13,989.6
明治15年06月	35.8	1.2		-26.6	-0.9	5,313.9	-297.4	-9.7	8,649.2	-263.2	-3.1	13,963.1
明治15年07月	208.8	7.0		-111.8	-3.7	5,202.1	-252.0	-8.4	8,649.2	-155.0	-1.7	13,651.3
明治15年08月										0.0		0.0
明治15年09月										0.0		0.0
明治15年10月	67.7	2.3		69.2	2.3		-192.7	-6.4		-35.8	-0.6	0.0
明治15年11月	71.8	2.4		-6.1	-0.2		69.3	2.3		135.0	0.0	0.0
明治15年12月	236.9	7.9		55.2	1.8		101.9	3.4		394.0	2.1	0.0
15年計	71.8			76.9			-1,453.3	-4.9		-1,306.6		0.0
月平均	7.2	0.2		7.7	0.3		-145.3	-4.9		-131.6	-1.5	0.0
明治16年01月	244.1	8.1		-2.3	-0.1		-70.2	-2.3		171.6	1.9	0.0
明治16年02月	-9.5	-0.3		-513.7	-17.1		-17.2	-0.6		-540.4	-6.0	0.0
明治16年03月	30.6	1.0		119.4	4.0		-61.1	-2.0		88.9	1.0	0.0
明治16年04月	93.0	3.1		141.3	4.7		107.8	3.6		342.1	3.8	0.0
16年計	358.3			-235.3	-2.1		-41.0	-0.3		62.0	0.0	0.0
月平均	89.6	3.0		-58.8	-2.1		-10.2	-0.3		15.6	0.2	0.0
全体系	7,921.7			2,923.2			-1,872.1			8,872.8		0.0
月平均	202.5	6.1		110.4	3.2		-137.0	-4.6		175.9	3.2	0.0

注1: 本表は第一鯉港丸は史料⑤、史料⑥及び史料⑩
 第二鯉港丸は、史料①、史料⑧及び史料⑩
 第三鯉港丸は、史料⑩、を用いて三船個別に作成したものを
 合体して作成
 注2: 全体想定利益は鯉港丸各船の篠田両名分の利益全体に
 換算したもの
 注3: 1往復の利益は鯉港丸は木下・鯉子間を一日1往復して
 おり、一月30日で計算し、利回りは、利益を元金で除したものと

初期鯉港丸三船の経営実態について
 鯉港丸草創期、明治12年8月～明治16年4月迄、3年8カ月間に三船全体で8772円、月平均95円、1往復約3円の利益をあげていた。
 明治14年後期からの不調があるものの同12年及び13年に上げた利益が多く、順調であった。
 しかし、示唆を見れば利益の89%は、第一鯉港丸であり、第二鯉港丸は欠損となり、加えて明治14年までの好調とは裏腹に明治15年は
 全体で1316円もの赤字を出し、一転して経営困難に直面していた。
 初期鯉港丸三船の明治12年8月～明治16年4月の平均利回りは、第一鯉港丸43.5%、第二鯉港丸99.0%、第三鯉港丸▲12.6%
 三船平均10.9%であった。
 結果的に三船全体では期待利回りの確保はできなかった。
 初期鯉港丸三船は、明治15年7月時点で約13850円もの元金が残っていた。当時の状況から早期に回収できる状況ではなかった。
 明治17年6月、吉岡七郎は、当時同盟関係にあった鯉子汽船の株主に向け、1700円の借入れの緊急申し出をしており、一層苦しい経営を
 強いられていた。四者の共同出資がいつまで継続したかは不明。

銚港丸 境・新川間運行状況表(明治24年4月)

寄航地	古布内	長谷	船形	瀬戸	三ツ堀	野木崎	船戸	布施	取手	青山
運賃	7	11	13	18	18	19	19	20	20	22
乗客数	16	1	3	1	0	5	1	0	7	1

運賃:銭/人

布佐	府川	木下	六間	安食	新川	乗客合計	運賃収入	手数料	船主収入
25	25	26	26	29	30			20%	
2	3	12	0	471	0	523	149円	29円	120円

木下蒸気船概要

船名	長さ	幅	深さ	製造地	製造年月	登簿噸数	馬力	購入代価	主な船主
信義丸	27	4.4			明治7年12月	42	20	3500	山口 コン
第一銚港丸	23	3.6	1.2	雲岸島	明治12年8月	16	10	6500	吉岡 七郎
第二銚港丸	22	3.6	1.1	雲岸島	明治13年9月	14	21	7300	吉岡 七郎
第三銚港丸	24	3.6	1.2	雲岸島	明治14年7月	15	23	7550	吉岡 七郎
第一銚子丸	21	3.4	1.2	木下	明治27年5月	31	25		吉岡 ヨネ
第四銚港丸	25	3.7	1.4	木下	明治30年6月	50	29		吉岡孝太郎
第五銚港丸	24	3.8	1.3	銚子	明治34年4月	46	32		吉岡孝太郎

明治14年前期銚港丸・信義丸 木下・銚子間時刻表

汽船名	第一銚港丸	信義丸	汽船名	第一銚港丸	信義丸
出航日	半日	丁日	出航日	丁日	半日
船長	板垣健吉	荒井武七	船長	板垣健吉	荒井武七
木下	16:00	18:00	銚子	18:00	11:00
源田	17:30	19:50	鳳栖	21:10	14:20
	17:35	20:00		21:15	14:30
佐原	19:50	21:50	石納	23:20	16:50
	19:55	22:10		23:25	17:00
笹川	21:35	0:00	田川	1:50	19:20
	21:40	0:10		1:55	19:30
銚子	23:10	2:10	木下	3:05	21:10
所要時間	7時間10分	8時間10分	所要時間	9時間5分	10時間10分

内国通運会社に係る明治10年代前期、通運丸経営実態

	明治12年	明治13年	明治14年	明治15年
	損益計算書			
取入計	37,826.168	46,379.231	74,201.897	93,844.277
支出計	21,154.020	34,012.044	71,750.348	89,514.756
利益	16,672.148	12,367.187	2,451.549	4,329.521
利益率	44.10%	26.70%	3.30%	4.60%
利回り(対船価)	45.00%	33.40%	6.60%	11.70%

注:各年の「内国通運会社決算報告書」第3表より作成
汽船は12年8艘、13年は11艘、14年は12艘、15年は14艘。

明治12年～明治15年までの内国通運決算報告書から作成した通運丸の経営実態
初期銚港丸三船と同時期の通運丸経営実態は、利益率は明治12年、44.1%
利回り、45%、空前の好成績をあげ、明治11年の通運丸にみる利益率、39.3%
利回り、26.3%を大きく上回る。
しかし、これは長続きせず、明治12年5月3日、内国通運の独占状態に終止符をうつ
太政官布告第十六号がだされ、各地の同業者が相次いで出現し、状況が一変する。
特に、明治13年7月、通運丸の上利根航路と同一航路に就航した永島丸の最大の
ライバルとなり、激しい競争を展開した。同年の利益率は早くも26.7%と減少し、
利回りも急落する。競争が激化した明治14年の利益率は、3.3%、利回り 4.5%
と大幅に悪化し、過日の好成績の面影は全くなくなっていた。明治15年も同様の傾向が続いた。